



VISITS Technologies 株式会社 代表取締役 CEO

まつもと

まさる

松本 勝さん

東京大学大学院工学系研究科修士後、ゴールドマンサックス入社。株式トレーダー、金利デリバティブトレーダーを経て、2010年にAI（人工知能）を用いた投資ファンドを設立。2014年にVISITS Technologiesを設立し、人の創造性を可視化する「デザイン思考テスト」を独自技術（日米で特許取得）により開発。企業向け意思決定DXツール「ideagram」等、企業のイノベーション・DX支援サービスも幅広く展開する。内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」委員、金融庁「金融審議会」委員等を歴任。スーツ・オブ・ザ・イヤー2019受賞。趣味はアームレスリング（元日本代表）。

【写真】安岡 嘉

AIを駆使した先進経営で 新時代を切り拓く

【取材・文】原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、株式会社スマートバリュー（東証一部上場）社外取締役、高知大学客員教授・経営協議会委員、成城大学非常勤講師、中小企業診断士、早稲田大学卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材ソーシャルビジネスを展開。著書「定年後の仕事は40代で決めなさい」（徳間書店）、「採用氷河期」（日本経済新聞出版社）、「インタビューの教科書」（同友館）など多数。

HARA'S
BEFORE

松本さん率いるVISITS Technologies社のオフィスは、ビジョンや思想が具現化した空間だと強く感じた。AIを駆使したクリエイティブへのアプローチも、他にはない独自性がある。新しい時代の企業経営に、大きなヒントが得られるインタビューとなった。

AIがクリエイティブを生み出す

原：AIを駆使するなど、非常に先進的な経営をしていますね。

松本：私たちのプロダクトに「デザイン思考テスト」というものがあります。人間はどんな場所で、どんな時に、どんな感情になるのかをテストしています。「その人の気持ちになって、その人のニーズを書いてください」というユーザーニーズと、「それを（たとえば）画像認識技術で解決する方法を書いてください」というソリューションを書いてもらうのです。これを「創造セッション」と呼んでいます。その後「評価セッション」があります。書かれているニーズの質が、どれくらい人を深く共感させるかを評価するのです。その技術を使った時の実現可能性なども評価します。

過去のデータから最適解を生み出すAIは、目的を与え、データがある時には非常に強いのですが、「いいビジネスのアイデアは何か」というデータは過去には存在しません。一方、デザイン思考の観点では、いいアイデアとは人が深く共感し、実現可能性が高いものですが、「共感」は定量的には評価できません。ところが、この評価セッションでは特殊なアルゴリズムで数値化することで、客観的な評価を可能にしています。いいアイデアをスコアリングし、そのAI

デアを出せる人は真にクリエイティブな確率が高いことを数値で評価し、可視化しているのです。

同時にデータカンパニーとして、状況によって人が持ちやすい感情の確率分布データを蓄積し、人の心の動きはこうなる確率が高いというアルゴリズムも開発しています。これを企業のシステムに導入すれば、多数のビジネスアイデアからイノベーションを起こし得るものを自動でフィルタリングすることもできます。

原：AIがクリエイティブを生み出すところまで、将来は可能だということですね。

松本：いいビジネスアイデアは、一部の才能ある人物が生み出すものと考えられがちです。しかし、その思考プロセスは構造化でき、誰もがイノベティブなアイデアを生み出すことができるのです。私たちは、そうした思考プロセスをプロダクトに組み込み、AIを使って人の創造力を最大化する技術を開発しています。

クリエイティビティのポイントは、人に共感する能力の高さで、それは後天的に鍛えることが可能なのです。たとえば、優秀な営業パーソンは相手の気持ちを予測できます。こうしたデザイン思考力は、営業だけでなくマーケティングや新規事業、さらには同僚とのチームワークにも必要ですから、ビジネスパーソンとしてベースとなる能力だと思います。

最近では、さまざまなものをデジタル化でき